

申請者	学科名	看護学科	職名	准教授	氏名	實金 栄
調査研究課題	高齢長期入院患者を介護する家族のスピリチュエへの家族支援の質の関連					
交付決定額	160,000					
調査研究組織	氏名		所属・職		専門分野	役割分担
	代表	實金 栄	看護学科 准教授		老年看護学	総括
	分担者					
調査研究実績の概要	<p>1. 目的 高齢長期入院患者を抱える家族へのスピリチュアルケアの質の向上をねらいとして、患者家族によるスピリチュアルケア評価尺度を開発し、その妥当性を検討することを本研究の目的とした。</p> <p>2. 研究方法 1) 対象：長期療養型医療施設に入院する65歳以上の患者の家族を対象とした。調査票は295人に配布し、82人から回収できた。そのうち分析項目に欠損のない69人を分析対象とした。 2) 調査方法：無記名による自記式質問紙を調査協力施設の職員を介して、家族に配布した。回収は郵送法により個別に行った。 3) 調査期間：平成26年9月～10月の2か月間 4) 調査内容：回答者の属性（性、年齢、続柄）、患者の入院期間とスピリチュアルケア実践（22項目。回答は「全くその通りでない」、「その通りでない」、「どちらかというとその通りでない」、「どちらかというとその通り」、「その通り」、「全くその通り」の6件法）とした。 5) 統計解析：スピリチュアルケア評価は回答を「その通りでない（0点）」と「その通り（1点）」の2件法に直し、「基本的ケア（8項目）」、「スピリチュアリティを見出すためのケア（6項目）」、「患者との関係保持（4項目）」、「他者との関係保持（4項目）」を一次因子、「スピリチュアルケア実践」を二次因子とするモデルのデータへの適合性を、構造方程式モデリングによる確認的因子分析（推定法は重み付け最小二乗法の拡張法 weighted least squares means and variance adjusted: WLSMV）により、因子構造の側面から見た構成概念妥当性を検討した。内的整合性はKR-20を算出した。モデルのデータへの適合性はRoot Means of Square Error of Approximation (RMSEA) および Comparative Fit Index (CFI) で判断した。RMSEAは0.08以下、CFIは0.90以上であれば、モデルがデータに適合していると判断される。以上の解析には統計ソフトSPSS Statistics22.0、M-Plus7.3を使用した。 6) 倫理的配慮：質問紙に研究の目的、守秘義務、権利保障等について記載した。回答は自由意思であり、回答を希望しない場合は質問紙を破棄してもらった。本研究は岡山県立大学倫理審査委員会の承認を得た。</p> <p>3. 結果 回答者の基本属性等を表1に示した。回答者の年齢は65歳以上が31人（45.0%）であり、患者の入院期間が2年を超えていたのは35人（51.0%）であった。家族によるスピリチュアルケア実践の評価の回答を表2に示した。「スピリチュアリティを見出すためのケア」、「患者との関係保持」、「他者との関係保持」において、「その通りでない」との回答が多かった。 「スピリチュアルケア実践」モデルのデータへの適合性は、CFI=.997、RMSEA=.028であり統計学的許容水準を満たしていた。KR-20は.950であった</p> <p>4. 考察 「基本的ケア」、「スピリチュアリティを見出すためのケア」、「患者との関係保持」、「他者との関係保持」を一次因子、とする「スピリチュアルケア実践」モデルの因子構造の側面から見た構成概念妥当性は検証された。 患者のスピリチュアリティの状態を知るには、患者のこれまでの生活を理解する必要がある。高齢者では言語的コミュニケーションが十分に行えなかったり、認知機能の低下により、理解に難しさを感じたりすることがある。しかがって患者のスピリチュアリティを知り、ケア提供するためには家族との協働は不可欠である。しかしながら本研究結果から</p>					

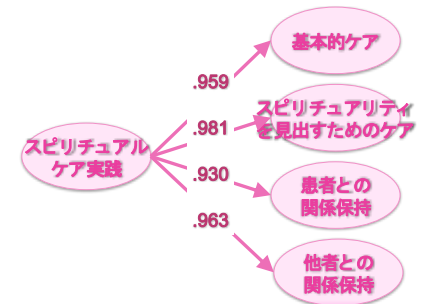
は、「スピリチュアリティを見出すケア」について、家族に話を聞き、考えることについて、家族からの評価は「その通りでない」というものが多かった。また「看護師は、配偶者（患者・利用者）の体調が悪化した時のこと（看取りも含む）も考えてかかわってくれる。」については「その通り」の回答が多かった。

しかし「看護師は、配偶者（患者・利用者）が生きがいや生きる意味を見出せるようなかわりをしてくれる。」、「看護師は、配偶者（患者・利用者）が楽しみになるようなことを見出し、かなえようとしてくれる。」など、最期の時までのどのように過ごすかについて「その通り」の回答は少なかった。

以上のことから、最期のその時だけでなく、自分にふさわしい死を迎えるために、今、最期までをどのように生きるかについて、家族とともに考え、ケアすることが重要であると考えられた。

表1 対象者の概要

	人	(%)
回答者の性別	女	45 (65.2)
	男	24 (34.8)
回答者の続柄	娘	20 (29.0)
	息子	19 (27.5)
	配偶者	14 (20.3)
	嫁	12 (17.4)
	婿	1 (1.4)
	孫娘	1 (1.4)
	めい	1 (1.4)
	その他	1 (1.4)
回答者の年齢	平均±SD (範囲) 歳	65.2±12.9 (31-94)
患者の入院期間	平均±SD (範囲) 月	32.1±28.9 (2-114)



n=69, CFI=.997, RMSEA=.028, KR-20=.950

図1 スピリチュアルケア実践の確認的因子分析

表2 スピリチュアルケア実践の評価

	その通りでない	その通り
基本的ケア		
x1. 看護師は、配偶者（患者・利用者）のケアを、いつも丁寧に行ってくれる。	5 (7.2)	64 (92.8)
x2. 看護師は、配偶者（患者・利用者）なりの、やり方や習慣を尊重してくれる。	7 (10.1)	62 (89.9)
x3. 看護師は、私の生活に無理のない、配偶者（患者・利用者）とのかかわりを考えてくれる。	8 (11.6)	61 (88.4)
x4. 看護師は、配偶者（患者・利用者）に対して、私が行えることを教えてくれる。	15 (21.7)	54 (78.3)
x5. 看護師は、私に配偶者（患者・利用者）の体調について、わかりやすく説明してくれる。	16 (23.2)	53 (76.8)
x6. 看護師は、看護や介護・かかわりに対する、私なりのやり方や習慣を尊重してくれる。	12 (17.4)	57 (82.6)
x7. 看護師は、私の体調を気にしてくれる。	16 (23.2)	53 (76.8)
x8. 看護師は、私の事をねぎらってくれる。	13 (18.8)	56 (81.2)
スピリチュアリティを見出すためのケア		
x9. 看護師は、配偶者（患者・利用者）の寿命をどのようにまっとうするか、あるいはまっとうしたいかについて、私や配偶者（患者・利用者）の話を聴いてくれる。	23 (33.3)	46 (66.7)
x10. 看護師は、配偶者（患者・利用者）の体調が悪化した時のこと（看取りも含む）も考えてかかわってくれる。	8 (11.6)	61 (88.4)
x11. 看護師には、配偶者（患者・利用者）の心の声を聴こうとする態度や行動がみられる。	14 (20.3)	55 (79.7)
x12. 看護師は、配偶者（患者・利用者）の話をしっかりと聴いてくれる（話ができない場合は、気持ちをくみとろうと丁寧にかかわってくれる）。	15 (21.7)	54 (78.3)
x13. 看護師は、配偶者（患者・利用者）が生きがいや生きる意味を見出せるようなかわりをしてくれる。	24 (34.8)	45 (65.2)
x14. 看護師は、配偶者（患者・利用者）が楽しみになるようなことを見出し、かなえようとしてくれる。	23 (33.3)	46 (66.7)
患者との関係保持		
x15. 看護師は、私と配偶者（患者・利用者）が穏やかに過ごせる時間をつくってくれる。	14 (20.3)	55 (79.7)
x16. 看護師は、配偶者（患者・利用者）の思いを代弁して、私に伝えてくれる。	23 (33.3)	46 (66.7)
x17. 看護師は、私の希望を前向きに考え、何とかしようとしてくれる。	17 (24.6)	52 (75.4)
x18. 看護師は、私と配偶者（患者・利用者）との良い関係を保とうとしてくれる。	11 (15.9)	58 (84.1)
他者との関係保持		
x19. 看護師は、私の思いを他の家族に伝えてくれる。	27 (39.1)	42 (60.9)
x20. 看護師は、私と他の家族との、良い関係を保とうとしてくれる。	20 (29.0)	49 (71.0)
x21. 看護師は、私の思いを他の専門家（医師や相談員、ケアマネージャーなど）に伝えてくれる。	21 (30.4)	48 (69.6)
x22. 看護師は、私と他の専門家（医師や相談員、ケアマネージャーなど）の間で、考えや思いのずれがあった時、ずれが修正されるようにしてくれる。	21 (30.4)	48 (69.6)

単位：人（％）

■は「その通り」の回答が多かった上位5項目、■は「その通りでない」の回答が多かった上位5項目

成果資料目録

實金 栄, 竹田 恵子, 井上 かおり, 楠木 麻子, 太湯 好子: 長期入院高齢患者の家族へのスピリチュアルケア評価尺度の妥当性の検討. 日本老年看護学会第20回学術集会抄録集, P113, 神奈川県パシフィコ横浜, 2015/6/12~14